

横浜都市発展記念館 開館10周年特別展

「港をめぐる二都物語 江戸東京と横浜」

東京は港を開くのか開かないのか。東京の港をめぐる動きはつねに横浜に大きな影響を及ぼしてきました。本展では、横浜開港（1859年）から東京開港（1941年）まで、ふたつの港のあゆみと歴史的風景を古写真・絵巻物・浮世絵・地図などから紹介します。

展示の見どころ

●「横浜と東京」の「港」をめぐる関係がメインテーマ

横浜では初の展示となるこのテーマ！ 東京（江戸）の港を外国に開こうとする動き（幕末期はその逆）によって、横浜はつねに大きな影響を受けて都市を発展させてきました。外国との関係が注目される横浜ですが、今回の展示では江戸・東京との関係に目を向けます！

●さまざまな展示資料

「横浜絵図」（幕末期、東京都立中央図書館）横浜の海岸線を海から見て描いた絵巻物。従来横浜では知られていなかったもので、写実的に横浜の海岸の景観がわかります！

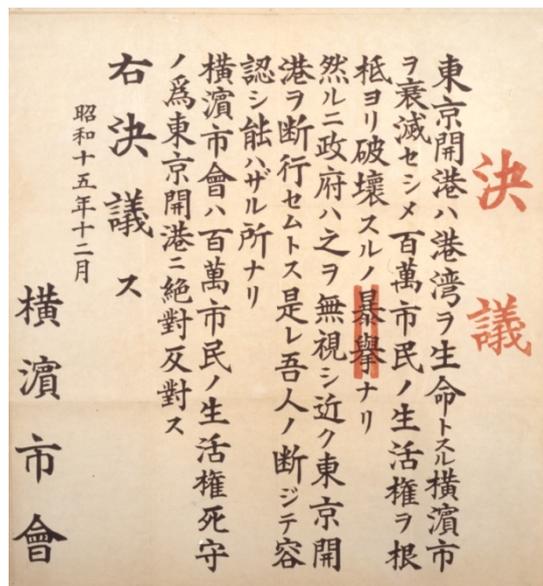


イギリス人技師プラントンによる横浜港設計図面（明治7年、早稲田大学図書館蔵）幻に終わった横浜港の設計案。大隈重信の手元に残された設計図の原資料を公開します。



戦前に京浜運河の造成を担当した東京湾埋立会社
(現・東亜建設工業)に貴重な写真が残っていました！

(昭和15年、山室宗作氏蔵) 東京開港に反対する
横浜側の憤りがよくわかる資料です。



東京開港に反対する横浜のポスター

開催期間 平成26(2014)年1月25日(土)～26年4月13日(日)
休館日 月曜日および2月12日(火)は休館 *2月11日(月)は開館
会場 横浜都市発展記念館 3階企画展示室
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
観覧料 一般300円、小・中学生150円 *会期中の再来館は1回まで無料とします。

主催：横浜都市発展記念館 共催：横浜市教育委員会、横浜開港資料館 協力：横浜市史資料室
後援：横浜港振興協会、朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、日本経済新聞社横浜支局、毎日新聞横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、NHK横浜放送局、TVK

関連企画

- 1階ギャラリー 写真パネル展「高度成長期 横浜の港」：2月1日(土)～4月13日(日)
- 横浜ユーラシア文化館(2階) 関連展示「ユーラシア二都物語」：1月15日(水)～4月13日(日)
- 歴史散歩「ハマの港をめぐる」 【共催】NPO法人 横浜シティガイド協会
【開催日】2月13日(木)、2月27日(木)
【集合】 当館中庭 12時45分(受付開始) 16時30分 解散(山手)
【定員】 30名
【参加費用】 800円(特別展観覧料含む)
【コース】 当館展示見学→象の鼻→横浜税関→山下公園→港の見える丘公園
- ボートツアー「ボートでめぐる二つの港」 【協力】京浜フェリーボート
【開催日・集合場所、集合時間】
 - ① 東京コース 3月28日(金) パレット栈橋 12:30
 - ② 横浜コース 3月30日(日) 象の鼻 9:30・13:00【定員】 ① 15人 ② 各回35人
【コース】 ① パレット栈橋～築地～芝浦～お台場～パレット栈橋
② 横浜コース 象の鼻～鶴見～川崎～羽田(往復)
- 展示解説 1月26日(日)、2月14日(金)、3月8日(土)、4月5日(土)
各回とも14時から45分程度

お問い合わせ先

横浜都市発展記念館 吉崎雅規(展示)、神谷量子(広報) Tel 045-663-2424